

ふるさと再発見

— 松平家忠と『家忠日記』 歴史を継承するということ —

松平家忠（1555～1600年）は、松平島原藩の初代・忠房の祖父です。三河国深溝（現愛知県額田郡幸田町深溝）を本領とし、徳川家康の家臣として、織豊期（織田信長・豊臣秀吉の時代）の数々の戦に参陣しました。1600年（慶長5年）、伏見城（現京都市伏見区）の城番であった家忠は、関ヶ原の戦いの直前に西軍の猛攻を受け、討死します。

この『家忠日記』のみで、当時の武家社会の一端を映し出す貴重な資料です。

この日記には、日本史上でも注目されるような記述が数多く見られます。例えば、日記の中で、主君・家康に対する家忠の呼び方が「家康」から「家康様」に変化しており、家康の地位が向上した事がうかがえます。

家忠は日記を記しており、現在駒澤大学にその原本が伝えられています。織豊期の武士の日記がまとまって現存しているの

孫の忠房の時に『家忠日記』の整理が行われます。その際、『家忠日記』の記事以降の出来事を書き加える形で『家忠日記増補追加』が編纂され、忠房自身も跋文（あとがき）を添えています。

原本が納められた桐箱の上蓋には、家忠から8代後の島原藩主・松平忠馮の署名があります。『家忠日記』は、歴史を後世に伝えようと志す、忠房や忠馮といった子孫の思いと、その大さを改めて感じさせてくれます。

（松平文庫学芸員 吉田 信也）



『家忠日記増補追加』（松平文庫蔵）

クローズアップ

Close Up!



88.4MHz（メガヘルツ）を占拠しようか。今回、紹介するのはコミュニティFM局「FMしまばら」です。同局は防災・防犯体制の確立を主な目的として平成19年に開局。放送時間は午前7時から午後10時まで（災害時は24時間体制で対応）、ラジオパーソナリティーは12人在籍されています。市民の生活に密着した身近な生活情報をはじめ、行政情報や市のイベント、防災防犯や災害情報などをリアルタイムで配信中。番組は、全て自主製作で生放送されており全国的にも珍しいそうです。

放送局長の辻野さんは「市民の皆さんが楽しくなるような番組づくりに努めています。ラジオをお聴きいただくのはもちろんですが、市民の身近な情報発信の場として、ボランティアやサークル活動など情報発信したい人はぜひご活用ください。」と話してくれました。また、パーソナリティーの一人からは「島原の情報を分かりやすくお伝えし、市民の皆さんをはじめ、多くの人に島原の魅力を発信していきたいです。ラジオを身近な存在に感じてもらえるとう嬉しですね。」と話してくれました。

「FMしまばら」は、しまばらの季節ごとの旬の情報が満載のほか、月1回の「市長の元氣トーク」（9ページ参照）も配信中です。ぜひ、皆さんお気軽にお聴きください。なお、「FMしまばら」ではスポンサー（広告）やスタッフを随時募集中。

▼問い合わせ先 FMしまばら ☎ 0885

